

令和6年度学校評価報告書

令和7年（2025年）3月17日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌平岡高等学校長 水 澤 弘 幸

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

1	教育活動に主体的に取り組み、自分の夢や目標を大切にし、達成に向けて継続的に努力する生徒を育成する。
2	お互いを認め合い高め合うとともに、自他の生命を尊重し行動する生徒を育成する。
3	基本的な生活習慣や規範意識を身に付け、自律的に行動する生徒を育成する。
4	望ましい職業観・勤労観を身に付け、社会及び職業に円滑に移行できる生徒を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	●家庭学習時間の確保を促す取組が弱い。 ●「総合的な探究の時間」を通じて、生徒にどのようなことを学ばせるか、そのためにどのような方法を用いるかが体系化されていない。 ●「わかる授業」の実施に対して自己評価が低いのは、学習に向かう生徒の様子を教員が肌で感じているからかもしれない。	○ICTを用いた学習も生徒の方が得意であろう。教員が遅れをとらないよう研修を積む必要があるのではないか。 ○生徒の進路実現に関して、普通教科の学力だけが問われる時代ではなくなってきた。様々な課題に取り組む、汎用性の高い学力の定着にも取り組んで欲しい。
改善方策	◎来年度から全校生徒を対象に学習支援クラウドサービスを導入し、家庭学習時間の記録や指導、探究活動の充実を目指したい。 ◎一般入試や総合型選抜において大学等で求められる学力を分析し、普段の授業に反映させるよう各教科で年間指導計画の見直しを図る。	
生徒指導	●北海道教育委員会が実施した学習状況調査において、「1日のスマホ使用時間が4時間」という生徒が多く見られる。SNSやゲームが原因となる犯罪やトラブルについて、教育も時代の流れを把握し、未然防止や対処方法を学ぶ必要がある。	◎本校では大きな事件はないが、報道等を見ても、若者を取り巻く犯罪やトラブルが後を絶たない。生徒の安全管理の観点から、未然防止を含む啓蒙活動の必要性があるのではないか。
改善方策	◎教員を対象とした外部講師による校内研修を実施し、事例研究を通じて対応策を学ぶ。	
進路指導	●保護者アンケートの回答に「三者面談を実施する対象に疑問がある」という回答があった。 ●年度当初からキャリアを意識した教育に重きを置き、「未来ゼミナール」を実施し、生徒の意識づけに効果があった。	○大学に進学しても最後には就職をすることを考えれば、人生全体を見て進路を考えることが必要である。意識づけとなった新しい取組は、継続して実施して欲しい。
改善方策	◎多様な進路希望にしっかりと寄り添い、支援する進路指導ができるよう、進路指導部が中心となり学年団を動かしていく組織・体制づくりに努める。	
健康安全指導	●「生命誕生」や「ジェンダーの多様性」といった分野での講演会等を実施したものの、評価が低い。性や生命などの題材を多面的にとらえ、他のアプローチを計画する必要があるかもしれない。	○社会構造の変化に伴い様々な面で、多面性を認めることの大切さを教える活動とあわせて、自然災害に備える気持ちを育てる活動は評価できる。継続して実施して欲しい。
改善方法	◎教職員だけでなく、PTAをはじめとする保護者の意見等を吸い上げ、より効果的な指導方法（またはどの程度までの指導が必要かなど）について検討する。	
公表方法	本校HPに掲載するとともに次年度4月に実施されるPTA総会で校長より説明する。	

3 添付資料 令和6年度学校評価アンケート（保護者回答）結果
令和6年度学校評価（教員による）自己評価結果